

まえがき … 3

プロローグ

アクティブラーニングまでの私の歩み

激しく変遷した私のキャリア形成 … 12 物理との出会い … 13 哲学との出会い … 14 空手・物理・弁証法に明け暮れた大学生生活から教員へ … 16 空手からカウンセリングへ … 18 教育相談へ、特にグループへ … 19 キャリア教育・コミュニケーション教育へ … 20 授業改善のための基礎力養成へ … 21 「物理の授業」改善へ … 22 問題解決の仲間・ネットワーキングの力 … 23 私の成長を支えてくれた教育相談 … 24

第1章

アクティブラーニングを支える カウンセリング24の基本スキル

- 1 教室で迎える … 28
- 2 初回面談の目標は、次回の約束をとる 「次の授業が楽しみだ」と感じさせて終わる … 30
- 3 自己開示を促す仕組みをつくる 「わからないから、教えて」が聞こえてくる教室 … 33
- 4 逐語記録の経験を活かす 一文字もおろそかにしない話し方 … 36

- 5 授業中に内面に触れるような面談はしない：43
- 6 一人ぼっちの生徒に深く入り込まない カウンセリングをしないで交渉する：51
- 7 空振りを恐れない コーディネート役としての働きかけを意識する：54
- 8 依存させない 1グループに滞留するのは30秒以内。カウンセリングの目標は自立させること：58
- 9 聞いてみないとわからない 子どもに質問し、確認してみる：60
- 10 受容と許容は違う 「確認テスト」は時間を守る。「待つてほしい」という気持ちは受容するが、行動は許容しない：63
- 11 「共感」よりも「共感的態度」で：66
- 12 身体の向きと視線の高さを意識する：67
- 13 目の前の人を大切にすゝる 一人でもいやな気持ちになることがあったらやめる：69
- 14 時間厳守 子どもたちを安全安心の場に置く第一歩：71
- 15 ダブルバインドにしない 「話し合え」と「私の話を聞け」の二つのメッセージを同時に与えない：75
- 16 体調と精神状態を自己管理 心配事やイライラを授業に持ち込まない：77
- 17 時間管理を丁寧に：78
- 18 リフレーミングを活用 感じ方・考え方・行動の仕方に大きな変化が起きる：82
- 19 コヴィーの「七つの習慣」 win-winの関係をつくる：90
- 20 選択理論1 「五つの基本的欲求」と「遠ざける習慣」「近づける習慣」：94
- 21 選択理論2 「ポスマネジメント」と「リードマネジメント」：98
- 22 ブリーフセラピー 未来志向・解決志向型の質問を磨く：101

- 23 構成的グループエンカウンター ファシリテーションの技が授業に活きる： 106
- 24 アクシヨナラーニング 「問題解決より」学習・成長」を重視する発想が主体的・協働的な学びを促進： 111

第2章

アクティブラーニング型授業と教育相談の実際

- 1 居眠り皆無の相互交流型授業 その構造と成果： 121
- 現在の授業の進め方（概略）： 122 説明：相互交流のプレゼンテーション： 124 中盤のグループ学習： 129 終盤の振り返り： 131 授業の準備と事後処理： 133 生徒の感想・成果・失敗： 134
- 2 「新しい授業」と教育相談の親和性： 135
- 導入↓学習内容の説明： 136 問題演習（グループ学習）： 139 振り返り↓終了： 140 教師の役割： 142 特に小林が意識していること： 143
- 3 「新しい授業」の質的向上を図るために： 144
- 知っておきたいキャリア教育の視点： 145 学んでおきたい学習理論の有用性： 147 現場で役立つ授業研究委員会の実践： 148 もっとない（？）企業が持つリソース： 150 ファシリテーション・スキルの必要性： 152

- 参考文献一覧： 157
- あとがき： 158